

scene と burial scene に言及して読み取るなどの解釈が示された。

「ワイルド関係の新刊書案内」河内恵子。ワイルド関係の新刊書に見られる傾向と、*Mother of Oscar* などの新刊書が紹介された。

「ワイルドの童話のテーマに関する考察」及川徳美。『幸福な王子とその他の童話集』に含まれるすべての童話に関して、innocence と experience を鍵として考察した研究発表であった。

「ペーターとワイルド—2」木村克彦。第17回ワイルド学会に続いて、ワイルドの『ルネッサンス』からの影響を、今回は感覚主義と夢想に焦点を絞った発表であった。主に両者が人生や思想をどの様な色彩に染めあげたのか考察された。さらに続編が予定されている。

日本ワイルド協会二十年史から

「西脇順三郎先生のワイルド協会創立一周年の記念講演テープ」酒井敏。西脇氏のテープが流された後、ワイルドに言及した西脇氏の詩などを交えて、西脇氏の思い出等が語られた。

司会・閉会の挨拶 岩永弘人。

第1回研究会、第2回研究会とも、夏期セミナーや秋期大会とは異なる、少人数の落ち着いた雰囲気の中で行われた。内容も、大会とは一味異なるものが盛り込まれ、新鮮さと興味深さのあるものであった。会終了後、懇親会が開かれ、和やかな空気の中で親睦が深められた。

## ワイルド書誌

(1994年7月～1995年5月)

- 新谷 好 「『真面目が肝心』の一考察——「パンペリング」と「フェース的な喜劇」をめぐって——」、『追手門学院大学文学部紀要』28号、追手門大学、1993年11月
- 千葉 剛 「Oscar Wilde の Fairy Tales (その4) ——*The Devoted Friend*——」、『英米文学語学研究会論集』、英米文学語学研究会、1993年12月
- 三瓶 真弘 「『サロメ』——魔法仕掛けの劇空間」、『構築』、第9号、構築舎、1994年2月
- 新谷 好 「オスカー・ワイルドの恋愛と結婚に関する伝記的考察」、『追手門大学英文学会論集』第3号、追手門大学英文学会、1994年3月
- 内山 正平 『地球の寿命と人間』、けやき書房、1994年3月

- 関根 正三 「風の誘い」、『風の絵』スカイドア、1994年4月30日
- 無 署名 「Yamazaki's Oscar Wilde」, ASAHI EVENING NEWS, May 19, 1994
- 天野 道映 「オスカー／名も言えぬ愛——法廷舞台、途切れぬ緊迫感」、『朝日新聞』、1994年6月27日
- 無 署名 「交差点／転落・失意の英作家ワイルド 夫の死に際し共感、初戯曲にアールベリー-信子さん (53)」、『日本経済新聞』、1994年7月3日
- 寺山 修司 『ポケットに名言集を』、角川書店、1994年4月
- 河村錠一郎 「霧の中のオスカー・ワイルド 世紀末の秋」、『《季刊》PANORAMIC MAGAZINE IZ (イズ)』No. 65、ポーラ文化研究所、1994年9月10日
- 荒井 良雄 「高松宮殿下記念世界文化賞の人びと (5)、サー・ジョン・ギールグッドと日本」、『産経新聞』、1994年10月22日
- 無 署名 「秋の褒賞 《私じゃない私》の快感 岸田今日子さん 64(女優)」、『読売新聞』、1994年11月2日
- 長谷川武久 「歌舞劇《撒羅米 (サロメ)》」、『音楽の友』、1994年11月号
- 千代田友久 「『理想の夫』の主題と構造——キャヴァンジャム伯爵の役割について」、『クアトロ・カンティ』第1号、ルネッサンス研究会、1994年12月20日
- 雪山 伸一 「『少年少女』という雑誌 教育への志あった時代」、『朝日新聞』、1994年12月30日
- 無 署名 「鎌倉美術館閉館1周年記念公演《撒羅米》」、『音楽芸術』、音楽之友社、1994年12月号
- クラウス・ウムパッハ著、西原稔・玉川裕子訳『金色のソナタ』、音楽之友社、1995年1月10日
- 無 署名 “Plaque unveiled in honor of Wilde,” THE JAPAN TIMES, 5 Jan. 1995
- 富山太佳夫 「オスカー・ワイルドを読むために」、『ダーウィンの世紀末』、青土社、1995年1月20日
- 日夏耿之介訳 『ボウ詩集・サロメ』、講談社、1995年2月10日
- 窪田 般弥 「解説 黄金の均衡」、『ボウ詩集・サロメ』、講談社、1995年2月10日
- 井村 君江 「作家案内——日夏耿之介」、『ボウ詩集・サロメ』、講談社、1995年2月10日
- 日夏耿之介 「参考／近代劇全集『サロメ』解題」、『ボウ詩集・サロメ』、講談社、1995年2月10日
- 日夏耿之介 「参考／角川文庫版『サロメ』解題」、『ボウ詩集・サロメ』、講談社、1995年2月10日

- 井村 君江 「著書目録——日夏耿之介」、『ポウ詩集・サロメ』、講談社、1995年2月10日
- 無 署 名 “Window dedicated to Wilde unveiled,” THE JAPAN TIMES, 16 Feb. 1995.
- 吉田 忠明 「海外公演情報 ロンドン／オペラ『サロメ』」、『朝日新聞』、1995年2月16日
- 今泉 文子 「出会いの風景／臨在」、『朝日新聞』、1995年2月21日
- 無 署 名 「作家オスカー・ワイルド／英寺院《文人の殿堂》入り」、『読売新聞』、1995年2月28日
- 千葉 剛 「Oscar Wilde の Fairy Tales——*The Remarkable Rocket*」、『東京農業大学一般教育学術集報』、第25巻、東京農業大学、1995年3月
- 伊藤 勲 「順三郎と《幻影の人》」、『現代詩手帳』4月号、思潮社、1995年4月
- 無 署 名 「日曜美術館：聖なる幻想／ギュスターヴ・モローの夢」、『朝日新聞』、1995年4月16日
- 無 署 名 「試写室／プライム11／神秘と幻想の画家モロー」、『朝日新聞』、1995年4月22日

## 講演・研究発表・会員消息

- 千葉 剛 「ニューイングランドの文学的遺産：エミリー・ディキンソン——オスカー・ワイルド、宮沢賢治と比較して——」、NHK教養講座(平成6年9月9日、NHK文化センター)

## ワイルド情報

- ◆劇中劇でサロメの踊り  
アガサ・クリスティ原作『名探偵ポワロ／グランドメトロポリタンの宝石盗難事件』がNHK総合テレビ(平成6年6月11日)で放映された。物語は主人公のポワロが、さる女優にロシア皇帝が贈ったとされる真珠のネックレス盗難事件を解決するというもの。これはワイルドの『真面目が肝心』をあら筋の基調としたもので、劇中劇としてサロメの踊りが登場した。制作：LWT(イギリス)、出演：ポアロ(デビッド・スーシェ／声：熊倉一雄)、ヘイスティングス(ヒュー・フレイザー／声：富山敬)。

### ◆『撒羅米(サロメ)』の上演

平成6年11月25日、27日の両日、鎌倉美術館(神奈川県鎌倉市)で、歌舞劇(フィクション・オペラ)『撒羅米(サロメ)』が上演された。これは鎌倉美術館開館1周年記念事業として上演されたもの。作曲：R・シュトラウス、指揮&芸術監督：若杉弘、音楽：東京交響楽団、振付：藤間勘吉郎、演出補：市川右近。出演：サロメ(岩井理花)、ヘロデ(種井静夫)、ヘロディアス(西明美)、ヨカーナン(多田康芳)。

なお、NHK総合テレビ(平成6年11月27日)の「おはよう日本」で、ヒロインのサロメが9分間に7度の衣装変えをする場面を放映した。

### ◆ワイルドのブランク(記念額)と詩人コーナー入り

1995年1月3日には、ヘイマーケット劇場にワイルドのブランクが飾られ、2月14日にはウエストミンスター寺院の詩人コーナーにワイルドの名前を記したスタンドグラスがはめ込まれた。詳しくは井村君江先生の「海外便り」参照。

### ◆サロメと阿部定の二人芝居

平成7年3月7日より14日まで、下北沢OFF・OFFシアター(東京都世田谷区下北沢)で、「女ふたり——阿部定とサロメ——」(玉井敬友事務所・下北沢OFF・OFFシアター提携公演)が上演された。愛するがゆえに男を殺してしまった阿部定とサロメ。現実や虚構や時空を超えて語り合う魅惑的な二人芝居。原作：田靡新、脚色・演出：玉井敬友、演出助手：田鎖久美子、舞台監督：河田均、土田一代志。出演：阿部定・水原ゆう紀、サロメ：徳永廣美。

### ◆ギュスターヴ・モロー展

平成7年3月21日より5月14日まで、国立西洋美術館(東京・上野)で、「ギュスターヴ・モロー展」が開かれた。《踊るサロメ》をはじめ多数の絵が出品された。5月23日より7月9日まで、京都国立近代美術館でも、同展覧会が開かれた。

### ◆NHK総合テレビのギュスターヴ・モロー

NHK総合テレビ「世紀末の美神たち／色彩の詩人たち／モロー」(平成7年4月14日、15日)で、ギュスターヴ・モローの《洗礼者ヨハネの首を持つサロメ》が、「魔性の女の妖気が漂う」という解説と共に紹介され、合わせて《サロメのための油絵習作》も放映された。語り：桜井洋子。

◆NHK総合テレビ「日曜美術館」(平成7年4月16日)で、「聖なる幻想／ギュスターヴ・モローの夢」が放映された。出演：桜井洋子(司会)、大岡玲、阿刀田高、喜多崎親(解説、国立西洋美術館研究員)。モローの描いた様々なサロメの絵が紹介されたが、それぞれに次のようなコメントがあった。《踊るサロメ》→「男を誘惑し、破壊させる女。19世紀末を象徴するものとしてサロメを描いている」(桜井)。《出現》→「ヨハネの首の方が正統な人間の象徴で、サロメは退廃的なものを象徴」(阿刀田)。《サロメの舞踏》→

「優美なサロメ像」(大岡)。《サロメ》→「ヨハネの首を所望の絵。猥奇美のようなものがモローの気持ちを引き付けたのかもしれない。モローの幻想性の中では魔性が合っていたのかもしれない」(阿刀田)。

◆NHK総合テレビ「プライム11」(平成7年4月22日)で、「神秘と幻想の画家モロー」が放映された。案内役:石坂浩二。パリのギュスターヴ・モロー美術館や《踊るサロメ》を含む彼の作品、そしてモローの家族のお墓などが放送され、「サロメは永遠の女性の象徴である」というモローの言葉も紹介された。再放送は5月3日。

◆NHK総合テレビ「世紀末の美神たち/モローの世界」(平成7年5月1日, 2日)で、ギュスターヴ・モローの《サロメ》の絵などが、「今も妖しい美しさで人々を引き付けている」というコメントと共に紹介された。

## ワイルドCD情報

### I. 楽劇『サロメ』全曲または抜粋(録音年代順)

- (1) リヒャルト・シュトラウス(1864-1949, ドイツ)  
楽劇『サロメ』(1905)からの抜粋  
ユージョ・ライヒェンベルガー指揮/ウィーン国立歌劇場管弦楽団  
1933年録音, コッホ・シュヴァン 3-1462-2(輸入盤)
- (2) 楽劇『サロメ』(1905)からの抜粋  
リヒャルト・シュトラウス指揮/ウィーン国立歌劇場管弦楽団  
1942年録音, コッホ・シュヴァン 3-1453-2(輸入盤)
- (3) 楽劇『サロメ』(1905)全曲  
ヨゼフ・カイルベルト指揮/ドレスデン国立管弦楽団  
1948年録音, ベルリン・クラシックス BC2062-2(輸入盤)
- (4) ヨゼフ・カイルベルト指揮/バイエルン国立管弦楽団  
1951年録音, オルフエオ C342 9321(輸入盤)
- (5) クルト・シュローダー指揮/ヘッセン放送交響楽団  
1952年録音, MYTO 2MCD935. 92(輸入盤)
- (6) ルドルフ・モラート指揮/ウィーン交響楽団  
1952年録音, フィリップス 438 664-2(輸入盤)
- (7) クレメンス・クラウス指揮/ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団  
1954年録音, ロンドン POCL E3082-3
- (8) 楽劇『サロメ』(1905)全曲および抜粋

- ディミトリ・ミトロプロス指揮/メトロポリタン歌劇場管弦楽団  
1958年録音, 及び55年録音より抜粋  
アルカディア CDMP459. 3(輸入盤)
- (9) 楽劇『サロメ』(1905)全曲  
サー・ゲオルグ・ショルティ指揮/ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団  
1961年録音, ロンドン POCL2964-5
  - (10) エーリッヒ・ラインスドルフ指揮/ロンドン交響楽団  
1968年録音, RCA6644-2-RG(輸入盤)
  - (11) カール・ベーム指揮/ハンブルグ国立歌劇場管弦楽団  
1970年録音, グラモフォン POCG2683-4
  - (12) フェルディナンド・ライトナー指揮/バイエルン国立歌劇場管弦楽団  
1971年録音, メロドラマ CDM 27098
  - (13) ヘルベルト・フォン・カラヤン指揮/ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団  
1977-78年録音, エンジェル TOCE 6442-3
  - (14) ジュゼッペ・シノーポリ指揮/ベルリン・ドイツ・オペラ管弦楽団  
1990年録音, グラモフォン POCG 1470-71
  - (15) ズビン・メータ指揮/ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団  
1990年録音, ソニー・クラシカル SRCR 8665-6
  - (16) 小沢征爾指揮/ドレスデン国立管弦楽団  
1990年録音, フィリップス PHCP-5270-1
  - (17) ケント・ナガノ指揮/リヨン歌劇場管弦楽団  
1991年録音, ヴァージン・クラシックス 91477-2(輸入盤)
- ### II. 楽劇『サロメ』から「7枚のヴェールの踊り」または「フィナーレ」
- (1) 楽劇『サロメ』から「7枚のヴェールの踊り」(ピアノ版)  
リヒャルト・シュトラウス(ロール・ピアノ)  
1905年自動演奏ピアノ収録, 1969-70年録音  
テルデック WPCS 4071
  - (2) 楽劇『サロメ』から「7枚のヴェールの踊り」  
リヒャルト・シュトラウス指揮/ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団  
1928年録音, グラモフォン POCG 2915-7
  - (3) ブルーノ・ワルター指揮/ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団  
1930年録音, EMI TOCE8051-64
  - (4) アルトゥーロ・トスカニーニ指揮/NBC交響楽団

- 1939年録音, RCA BVCC 5182
- (5) フリッツ・ライナー指揮/シカゴ交響楽団  
1954年録音, RCA BVCC 1018
- (6) ポール・パレー指揮/デトロイト交響楽団  
1958年録音, マーキュリー PHCP 10254
- (7) フランツ・コンヴィチュニー指揮/ウィーン交響楽団  
1959年録音, デンオン COCO 75408 (廃盤)
- (8) レオポルド・ストコフスキー指揮/ニューヨーク・スタジアム・シンフォニー管弦楽団  
1959年録音, ヴァンガード・クラシックス EVC9004 (輸入盤)
- (9) オットー・クレンペラー指揮/フィルハーモニア管弦楽団  
1961年録音, EMI TOCE 7036
- (10) ユージン・オーマンディ指揮/フィラデルフィア管弦楽団  
1962年録音, ソニー・クラシカル SBK53511 (輸入盤)
- (11) カール・ベーム指揮/ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団  
1963年録音, グラモフォン POCG2701-2
- (12) レナード・バーンスタイン指揮/ニューヨーク・フィルハーモニー管弦楽団  
1965年録音, ソニー・クラシックス SRCR9540
- (13) ルドルフ・ケンペ指揮/ドレスデン国立管弦楽団  
1970年録音, EMI TOCE7542-51
- (14) 楽劇『サロメ』から「フィナーレ」  
「ビルギット・ニールソン (ソプラノ) リサイタル」所収  
カール・ベーム指揮/メトロポリタン歌劇場管弦楽団  
1972年録音, グラモフォン 431 107-2 (輸入盤)
- (15) 楽劇『サロメ』から「7枚のヴェールの踊り」  
ヘルベルト・フォン・カラヤン指揮/ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団  
1973年録音, グラモフォン POCG2278
- (16) レナード・バーンスタイン指揮/フランス国立管弦楽団  
1977年録音, グラモフォン POCG2416
- (17) 秋山和慶指揮/バンクーバー・シンフォニー管弦楽団  
1985年録音, CBCエンタープライズ SMCD5015 (輸入盤)
- (18) ウラディミール・アシュケナーズ指揮/クリーヴランド管弦楽団  
1985年録音, ロンドン POCL2359
- (19) アレクサンダー・コピロフ指揮/USSRテレビ・ラジオ大交響楽団

- 1987年録音, APL101, 504 (輸入盤)
- (20) ネーム・ヤルヴィ指揮/スコティッシュ・ナショナル管弦楽団  
1988年録音, シャンドス CHAN8758 (輸入盤)
- (21) 楽劇『サロメ』から「フィナーレ」  
マーク・エルダー指揮/ロンドン・フィルハーモニー管弦楽団  
1989年録音, ロイヤル・クラシックス ROY6418 (輸入盤)
- (22) 楽劇『サロメ』から「7枚のヴェールの踊り」  
アンドレ・プレヴィン指揮, ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団  
1992年録音, グラモフォン POCG1699

### III. 楽劇『サロメ』のLD

- (1) カール・ベーム指揮/ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団  
ストラータス (サロメ), バイラー (ヘロデ), ヴァイクル (ヨカナン) フリードリッヒ演出 1974年収録 グラモフォン POLG1063
- (2) ジュゼッペ・シノーポリ指揮/ベルリン・ドイツ・オペラ管弦楽団  
マルフィターノ (サロメ), ヒースターマン (ヘロデ), エステス (ヨカナン)  
ヴェイグル演出 1990年収録 テルデックWPLP9738
- (3) エドワード・ダウンズ指揮/コヴェント・ガーデン王立歌劇場管弦楽団  
ユーイング (サロメ), リーゲル (ヘロデ), テヴリン (ヨカナン) ビーター・ホール演出 1992年収録 パイオニア PILC-1164

### IV. その他

- (1) Sir John Gielgud & Dame Edith Evans—The Voice of Poetry  
サー・ジョン・ギールグッド, デイム・イーディス・エヴァンズ (朗読)  
☆協会名誉会長ギールグッドと, イーディス・エヴァンズによる『まじめが大切』  
第1幕「ハンドバッグの場面」の朗読を収めたもの。  
1939年録音, パール GEMM CD9144 (輸入盤)
- (2) アレクサンドル・グラズノフ (1865-1936, ロシア)  
「序奏とサロメの踊り」(1908, 付随音楽)  
アントニオ・デ・アルメイダ指揮/香港フィルハーモニー管弦楽団  
1986年録音, マルコ・ポーロ 8. 220445 (輸入盤)
- (3) エリック・コーツ (1886-1957, イギリス)  
「わがままな大男」(1925, 管弦楽のための幻想曲)  
エドリアン・リーパー指揮/チェコスロバキア放送交響楽団

---

1992年録音, マルコ・ポーロ 8. 223445 (輸入盤)

- (4) フレデリック・ゼヴースキー (1938- , アメリカ)

「獄中記」(1992, 『獄中記』からの抜粋の朗読に, ピアノ独奏を組み合わせたもの) フレデリック・ゼヴースキー (朗読・ピアノ)

1993年録音, hat ART CD 6134 (輸入盤)